



2026年1月26日 日本成長戦略会議人材育成分科会

資料 5 - 2

——地域大学振興に向けて——

共愛学園前橋国際大学 学長
大森昭生

中央教育審議会大学分科会 臨時委員
同 認証評価機関の認証に関する審査委員会 座長
文部科学省2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議 委員
文部科学省 地域大学振興に関する有識者会議 座長

地域大学の必要性—アクセス確保と地方創生・地域人材育成の視点から—



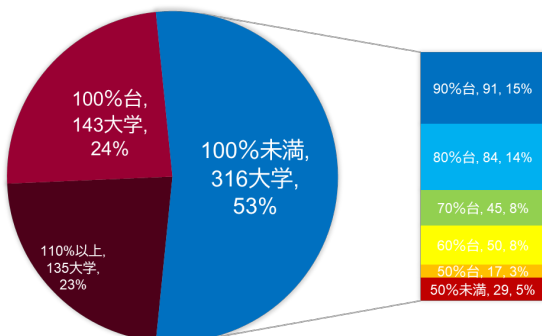
この大学がなかったら、進学をあきらめていた

地元高校を卒業後、地元国立大に不合格となり本学に入学した学生が文科省で意見表明した際の言葉



学びたい若者が進学をあきらめる社会を残してよいのか

「定員割れ大学＝マジョリティ
＝個々の努力では追いつかない状況」



2025年度私立大学・短期大学等入学志願動向
(日本私立学校振興・共済事業団)



各法人の経営判断に委ねるのみでは
地域から学びの機会が縮減・消滅する

特に、私学は非営利組織であり、人口減少地域において学びの機会確保・人材育成のために大学を維持している法人を賞賛・支援すべき

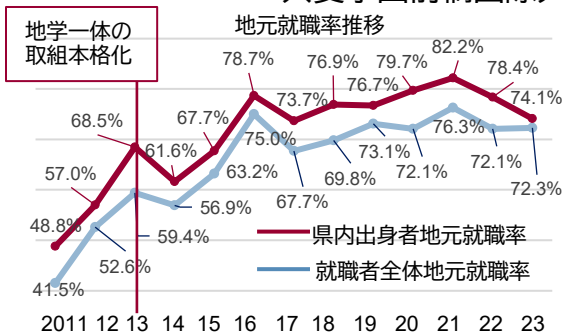
地域大学の役割・必要性

地域経済活性・新産業創出
地域産業人材育成
エッセンシャル人材育成

地域と一体の学びによる
定着人口・関係人口増

地域国際化・外国人材
定着のゲートウェイ

共愛学園前橋国際大学の実例



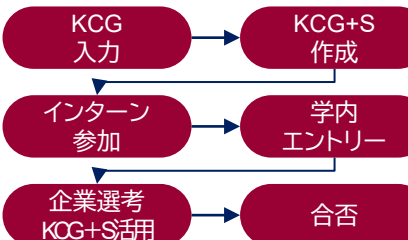
在籍学生の地元出身者約9割
就職者の7～8割が地元就職

↓
地域からお預かりし、
地域にお返しする
地方創生拠点大学

地元企業と展開する学修成果の
キャリア接続

KYOAI Career Gate(KCG)採用

学修成果を可視するe
ポートフォリオKCGの
ショーケース(KCG+S)
を採用担当者と共有す
る採用ルートを構築



地域・地元企業理解のための学び

【地元寄付講座】

- 群馬を知る(群馬県庁)
- 前橋市を考える(前橋市役所)
- 企業人オムニバス(中小企業家同友会)
- 地域と企業(地元企業)
- 地域企業人の経営力を学ぶ(地元起業家の会)
- キャリアプランニング(地元複数企業)

【インターンシップ】

- 長期インターンシップ(4か月)

【地域実践型PBL・海外研修】

地域実践PBL:約30科目
GLOBAL科目:約20科目

地域大学の教育の質の向上—地域連携と理系転換の視点から共愛学園前橋国際大学の事例を基に—

地学一体という考え方

- 大学も地域の一部でしかない、故に地学一体
- 人材が必要なのは地域。ならば、未来の地域人材を大学と地域と一緒に主体となって育てましょう

長期インターン
半期(4か月)大学に通う代わりに市役所や企業等へ勤務



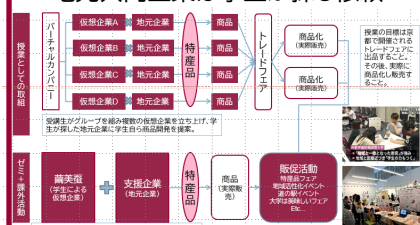
地域プロジェクト演習
「地域の孫になる」山間地域の限界集落で生活支援や見守り



地域と企業
地元車販売社が電気自動車5台を学内に設置し授業を展開



バーチャル・カンパニー
群馬特産品を仮想企業で商品化
地元共同企業は学生が探し依頼



地域活性化演習
過疎地域課題探究で
消滅危機自治体へ



学校フィールド学習
地元公立小に毎日2名の学生が勤務



※右表のとおり、その他多数の地域実践型授業が展開されている

全学共通科目

全学共通科目の中で、多数の地域関連科目が用意され、学生は4年間のうちに必ずオフキャンパスの学びを経験する。

共愛コア科目群 (16単位以上)

地域理解領域
群馬を知る
前橋市を考える
地域と企業
群馬の産業と社会
群馬の環境政策
まちづくりデザイン
国際社会理解領域
7科目
共愛共生領域
12科目

Global領域

ミッション・グローバル研修
台湾異文化研修
タイ異文化研修
ベトナム異文化研修
one on one オンライン研修
ブルガリア・ルーマニア研修
語学研修(英語圏 I II III)
語学研修(英語圏外 I II)
Global Learning A B
中期海外研修
長期海外研修
海外教育研修
海外長期インターンシップ

Glocal PBL領域

Glocal Seminar

Glocal科目群(8単位以上)

Local領域

取材型地域企業研究
ボランティア 企業人オムニバス講座
地域課題発見実践 街づくり実践演習
群馬で学ぶ 前橋市で学ぶ
地域とアート シティンシップ演習
地域企業人の経営力を学ぶ
長期インターンシップ 介護等体験
地域プロジェクト演習(児童向けGWS)
地域プロジェクト演習(自然体験支援)
地域プロジェクト演習(共愛COCO)
地域プロジェクト演習(スワロービック)
地域プロジェクト演習(共愛ファーム)
地域活性化演習(まちなか商店街)
地域活性化演習(スローシティ)
地域活性化演習(過疎地域課題探究)
地域活性化演習(絹織物)
地域活性化演習(共生)
地域活性化演習(スローシティ上級)
地域アドバンス演習(自然体験支援)
地域アドバンス演習(共愛COCO)
地域アドバンス演習(スワロービック)
地域アドバンス演習(共愛ファーム)

ミッション・グローバル

地元企業の
ビジネスミ
ッションを
バンコクで



Glocal Seminar(全学必修)

Data Drivenな
地域課題PBL。
全教員がTTで
担当。



前橋市のデジタル田園都市国家構想
デジタル・グリーンシティ



デジタル共創学部(2026年4月開設)



- デジタル技術を活用し、他者と共にWell-Beingな社会を創造できる人材育成
- Late Specialization
- 地域企業のDX・県主力産業(食産業)のDX推進
- 既存の国際社会学部は文系でも数理・DS・AIを10単位必修(MDASH認定)

- 「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金」による支援がなければ地方小規模文系大学の理系転換は困難(本学の場合、既存文系学部の定員減で理系転換)。また、地方の専門人材不足を補うためには企業とのクロアポをより可能とする柔軟な設置審査も必要。
- 地方にこそ、デジタル人材が必要。首都圏に集中させてはいけない。首都圏大学の理系転換は、地方大学支援とセットで進めることが期待される。

大学における教育の質向上と学修成果の可視化と質保証

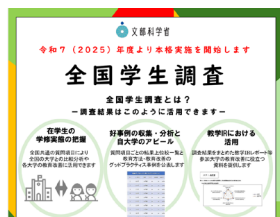
我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)

質向上・質保証システム部会

教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方WG

教育の質と教育の改善を確認する新たな評価制度を議論

- 学修者本位の教育を引き出す評価制度の構築
 - 3ポリシーを基盤とする教育成果／学生自身の成長実感／教育改善の進捗
 - 養成すべき人材像やDPに照らして学生の学修成果を可視化し、教育改善へ活用されているか
- 社会に開かれた高等教育機関の質保証・質向上
- 効果的かつ効率的な評価



全国学生調査

- 規模や立地、知名度等による入学者選抜の選抜性の高低によらず、教育研究の質の高度化に向けた取組について適切な評価を得る
- 学修の主体である学生目線からの大学教育や学びの実態把握

ポジティブリスト

学生に高い評価を受けた上位校一覧を公表することで、各大学において比較分析を踏まえた教育改善に活用することや、大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等に、大学に対する理解を深めてもらうことを目的として実施。

必ずしも知名度がある大学がポジティブリストに並んでいるわけではない。入試選抜性の高低と教育力や学生の成長は別軸であり、これは、今後よりユニバーサルアクセスを可能とし、知の総和を向上させるべき日本の高等教育において重要な視点である。

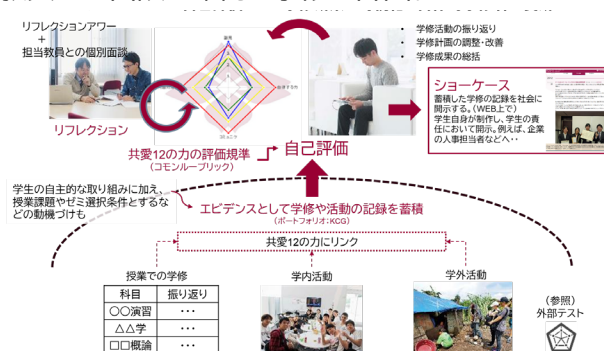
共愛学園前橋国際大学における学修成果の可視化と質保証

エビデンスベースの自己評価による学修成果の可視化と自律的学修者の養成

DPである「共愛12の力」の達成進捗をポートフォリオ(KYOA Career Gate)に12の力と紐づけて蓄積されたエビデンスを基に学生自身がルーブリック(基準)に即して評価。毎年度教員との面談で確認し学修を計画。

卒業時ほぼ100%の学生が学修成果を評価。(学修成果の可視化の主体は学修者自身＝教学マネジメント指針)

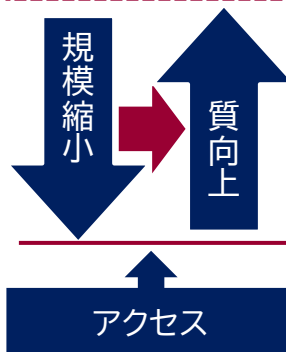
また、ショーケースとして蓄積された記録を社会に自らの言葉で開示。大学は、その結果を基にカリキュラム改善。



カリキュラムマネジメントによるDPの質保証

科目群ごとに、12の力の何を身につけるかが規定されていて、その群に含まれる科目はどの科目であってもそれらの力を身につけるよう設計され、授業される。すなわち、カリキュラムマネジメント上は124単位で12の力を身につけられることが保証されており、そのうえでKCGを通して学生が自己評価するとともに、124単位以外で身につけた力も加えることができるようになっている。

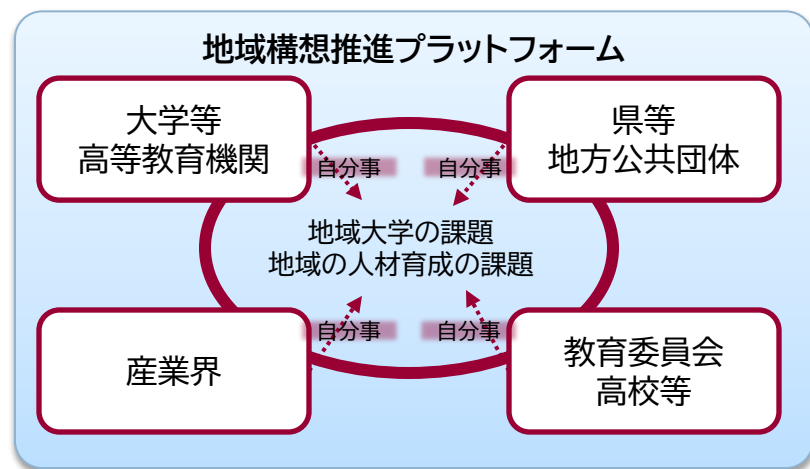
教育の質保証「12の力」のDPの質保証	12の力	共愛コア	GLOBAL	GLOBAL	MIDA	外国語	キャリア	新領域	専門教育
共通性	共通性	●	●	●	●	●	●	●	●
共通性	共通性	●	●	●	●	●	●	●	●
グローバル・リーダーシップ	グローバル・リーダーシップ	●	●	●	●	●	●	●	●
自己を認識する力	自己を認識する力	●	●	●	●	●	●	●	●
自己を表現する力	自己を表現する力	●	●	●	●	●	●	●	●
正義性	正義性	●	●	●	●	●	●	●	●
共感力	共感力	●	●	●	●	●	●	●	●
協働する力	協働する力	●	●	●	●	●	●	●	●
問題を解決する力	問題を解決する力	●	●	●	●	●	●	●	●
分析し、思考する力	分析し、思考する力	●	●	●	●	●	●	●	●
実践し、実行する力	実践し、実行する力	●	●	●	●	●	●	●	●
実践的スキル	実践的スキル	●	●	●	●	●	●	●	●



適正規模化と質向上

- 適正規模化＝規模縮小が教育の質の低下を招いてはいけない。例えば、規模を縮小しても縮小前の収入が担保されれば施設に余裕ができ、ST比は改善する。これは、国・地域が大学の適正規模化を支援する際の重要な観点となる。
- 社会科学と自然科学では設置基準上のST比が異なる。故に自然科学系の学費が高く設定される。社会科学の多くは私学が担う現状を踏まえると、ST比改善＝学費上昇とならざるを得ない。適正規模化の議論にとどまらず、教育質向上と大学へのアクセスを両立させるための財政的施策も検討しなければいけない。

地域大学の振興に向けてー地域構想推進プラットフォームの必要性ー



高等学校教育改革促進基金による 「N-E.X.T.ハイスクール構想」

アドバンスト・エッセン
シャルワーカー等育成

理数系人材育成支援

多様な学習ニーズに対応
した教育機会確保

- 2040年には、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップにより、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足、いわゆる理系人材の不足が懸念されるところであり、産業イノベーション人材の育成が重要。
- 学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組、探究活動の深化による多様な進路に向けた支援を行う。
 - 学科・コースの再編、学校設定科目の新設／域内の教育環境向上
 - 高等教育機関・地域・産業界と連携、外部人材の登用
 - グローバル人材育成に向けた留学の派遣・受入に係る環境構築

地域の教育
力向上も
地域大学の
重要な使命

成長戦略として政府の重厚な省庁横断の支援 個々の地方大学への支援も重要

- 地域の成長戦略・将来構想・主要産業を支える人材やエッセンシャル人材の需要などから、バックキャストした高等教育の在り方や高校教育改革を議論
- 高等教育機関の適正規模や適正配置について真剣に議論
- ライバルだった地域大学同士が、大学間協働体制を構築し、適正規模化によるコスト不足を補完しあうことを議論
- 政府、自治体、産業界は地域の高等教育の課題を地域人材育成という地域課題として受け止め、自分事としていかに地域高等教育機関を支援するかを検討

- ◆ 山梨県の山梨大と山梨県立大の連携推進法人による先進事例、大分県の総合計画に位置付け相当の予算を組んだプラットフォームの取組、福井県の私学に対する支援、岐阜大との連携開設科目による市立女子短期大学のMDASH認定、前橋市の行政施策としてのめぶくプラットフォーム前橋、その他多数の事例が動き出しているし、各地で大学間連携の機運が高まっている

地域における高大連携の事例

- 群馬県教育委員会の取組
 - ぐんま教育DXコンソーシアム／運営協議会
 - 県内大学・産業界・県庁関係部署
 - DXハイスクール／SSH
 - GUNMAグローバル人材育成事業
 - トビタテ！留学JAPAN拠点形成支援事業
 - 生徒たちの探究課題に関して県内大学学生・教員がアドバイスする体制構築
- 共愛学園前橋国際大学の事例
 - 県内多数の公立高校へ探究支援(学生・教員)
 - 県内多数の公立高校へ学校評議員や運営指導員等を派遣
 - 県内個別高校の授業を共同実施(先取履修)
 - 高校生研究員制度



（参考資料）

共愛学園前橋国際大学の紹介

共愛学園の歩み

明治21年

1888

前橋
英和
女学校

開校

新島襄も発起人の一人

1889

上毛
共愛
女学校

改称

1939

共愛
幼稚園

開設

1947

中学校

高校に併設

100周年事業 110周年事業

1988

女子
短期
大学

開学

2004年共愛社から共愛学園へ

1999

市立保育園
民間移管

公立小児童のために開設

2009

木瀬保
育園

2001年男女共学

短大全面改組

2011

学童
クラブ

開校

130周年事業

2016

子ども
園

設置者変更
他法人からの移管

2021

幼稚園・保
育園統合

短期
大学
部

共愛学園

子ども園

学童クラブ

小学校

中学校

高等学校

前橋国際大学
短期大学部

前橋国際大学



共愛学園前橋国際大学 KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

2026年度からの
新体制

理 念 共愛＝共生の精神

定 員 入学定員350名（国際社会250名＋デジタル共創100名）

国際社会学部

GLOCALリーダーへ ～国際的な視野を持ち、地域の諸課題に対処できる人材～

国際社会 学科	国際社会 専攻	英語コミュニケーションコース English Communication Course
		国際コース International Course
		経営コース Business Management Course NEW
		心理・人間文化コース Psychology, Humanity and Culture Course
	NEW 地域児童 教育専攻	学校教育コース School Education Course
		幼児教育・保育コース Early Childhood Education and Care Course

デジタル共創学部

デジタル共創人材へ～デジタル技術を活用し、他者と共にWell-Beingな社会を創造できる人材～



デジタル
共創学科

DX
モジュール



ICT
モジュール

Management
モジュール

食・健康・暮らし
モジュール



GLOBAL + LOCAL = GLOCAL
&
WELL-BEING



OFF-CAMPUS



ACTIVE LEARNING



共に愛し共に生きる
KYOAI GAKUEN UNIVERSITY

地域の未来は私がつくる
Faculty of International Social Studies

社会の未来は私たちがつくる
Faculty of Co-Innovation

予測困難な時代を生きるために必要な「共愛12の力」

I

識見

1. 共生のための知識



多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識

2. 共生のための態度



多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動

3. グローカル・マインド



地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢

II

自律する力

4. 自己を理解する力



多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識

5. 自己を制御する力



ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力

6. 主体性



人からの指示を待つだけでなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力

III

コミュニケーション能力

7. 伝え合う力



コミュニケーションにおいて、相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力

8. 協働する力



他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力

9. 関係を構築する力



様々な他者と円滑な関係を築く力

IV

問題に対応する力

10. 分析し、思考する力



様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力

11. 構想し、実行する力



課題に対応するための計画を立て、実行する力

12. 実践的スキル



現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル



共愛学園前橋国際大学への注目

6位

学長が教育面で注目する大学
(過去7年連続4~5位)

1位

学長が注目する学長
(4年連続)

1位 共愛学園前橋国際大

2位 筑波大

3位 早稲田大

4位 東京科学大・東北大

6位 津田塾大

7位 慶應義塾大

8位 立命館アジア太平洋大

9位 広島大

10位 北海道大・国際教養大

10位

学長が総合的に注目する大学

1位 東北大

2位 東京大

3位 京大

4位 東京科学大

5位 金沢工業大

6位 立命館大

7位 大阪大

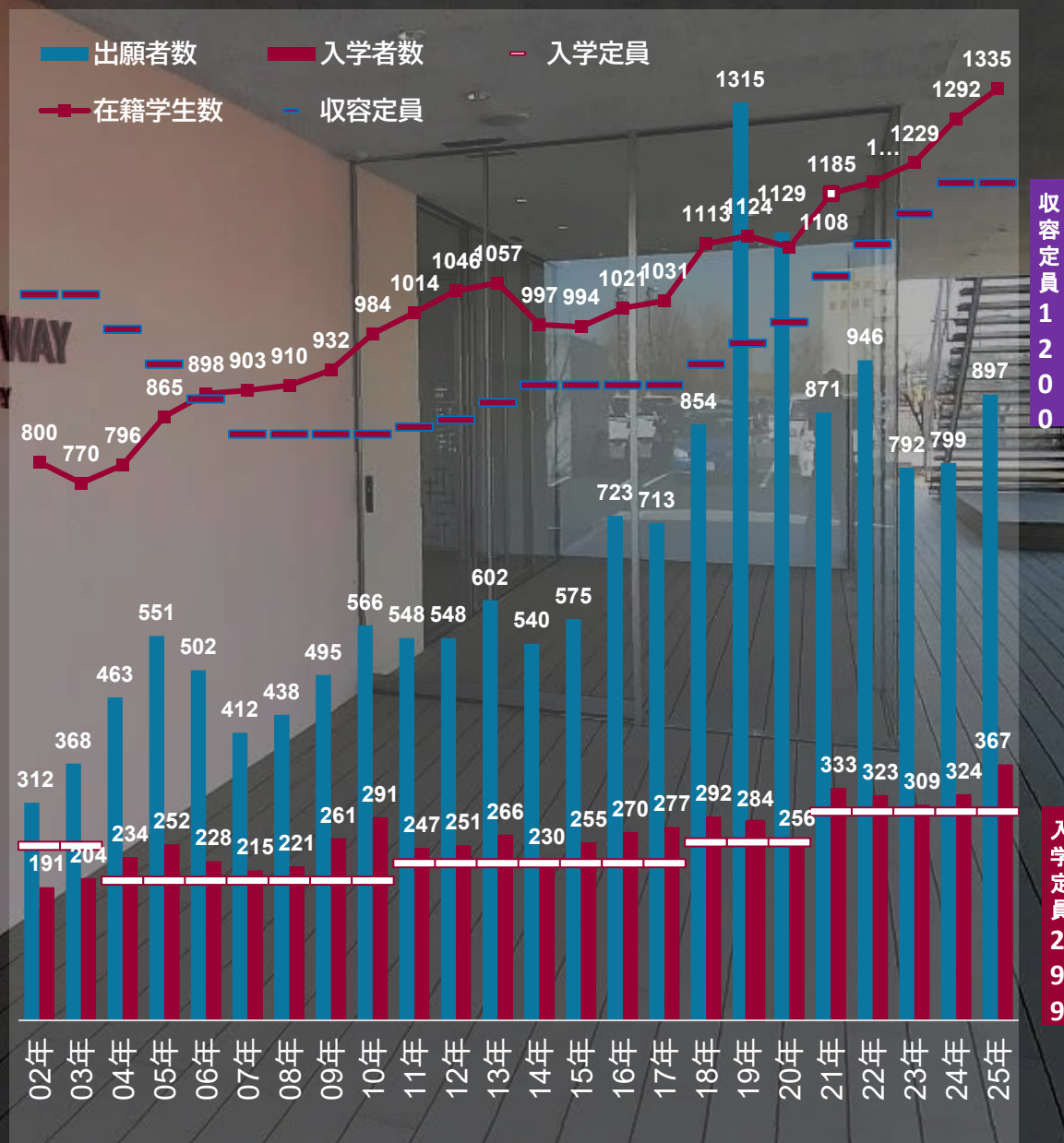
8位 国際教養大

9位 国際基督教大

10位 共愛学園前橋国際大

『大学ランキング2026』(朝日新聞出版)

在籍学生数・出願者数・入学者数推移



本学の取り組みが紹介された事例集や書籍・メディア

「大学等における「教職協働」の先進的事例に係る調査」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1403495.htm

地域で学び、地域を支える。

大学による地方創生の取組事例集

https://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/chihoujirei.html

「教学マネジメントの確立に資する事例の把握等に関する調査研究」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418380_00003.htm

「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」の実現に向けて」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/062/1417904_00002.htm

先進的大学改革推進委託事業「高等教育段階における遠隔教育の実態に関する調査研究」

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418400_00002.htm

平成30年度文部科学白書「特集2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に「めぶく。プラットフォーム前橋」が事例紹介。

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/1420047.htm

新たな大学像を求めて

共愛学園前橋国際大学はなぜ注目されるのか

出版社：IN通信社 (2019/11/14)

今選ぶなら、地方小規模私立大学！

～偏差値による進路選択からの脱却～

出版社：レゾンクリエイト (2018/10/19)

地域に愛される大学のすすめ

出版社：三省堂 (2011/7/26)



NHK おはよう日本
(2024年11月20日)



NHK 時論公論
(2025年5月22日)



TBS Nスタ
(2026年1月4日)



「世界に羽ばたかない」大学でも人気の納得理由、
地方の小規模大学が生き残る術
全国の学長が注目する学長・大森昭生氏に聞く

日本には現在813の大学があり、その77%が私立大学だ（文部科学省「令和6年度学校基本調査」）。日本私立学校振興・共済事業団によると、2024年度に入学者が定員割れした4年制の私立大学は354校。全体の59.2%で過去最高だという。少子化で大学を取り巻く環境が厳しくなる中、共愛学園前橋国際大学は地方の小規模大学ながら、在籍学生数が過去最速を更新し続けている。一度は入学定員割れの危機に陥りながらも、なぜ人気大学へと復活を遂げることができたのか。学長の森昭生氏に話を聞いた。

東洋経済
(2025年5月2日)

私立大学の5割が定員割れ、1年間で約90校なくなる？「自分だけ生き残ればいい」という発想捨て《地方大学同士が連携》する意味

高田 暁：フリーライター

2026/01/04 6:00

共有 フォロー ブックマーク 印刷 A+ 拡大



共愛学園前橋国際大学学長の森昭生氏。中央教育審議会大学部会委員や地方大学振興に関する有識者会議の会長を務める（写真：共愛学園前橋国際大学）

東洋経済
(2026年1月4日)

その他、書籍・新聞・テレビ・雑誌記事等多数